

先人の思いを胸に次の時代へ

JR四国 鉄道事業本部 四之宮和幸氏

(6月27日付で取締役財務部長)



当社が発定して2年目、残り2本の本四架橋は瀬戸大橋線ができました。道路専用ということで、当社の利用をお客さまが減少してまいりました。平成16年からは新幹線がないので、平成16年からは会社発定初年度を下回るまでになりました。その後は比較安定していましたが、平成20年にリーマン・ショックが起きたこと、政府の経済対策で高速道路が4年間に土休百千円が打ち出され

日本さんによる「せとうちキャンペーン」を実施いたしました。昨年ほどはD&Sの立ち上がりがありました。当社としても、瀬戸内のプロモーションを強化した年でした。

鉄道インフラを最大限活用 観光需要の創出に努める

ご利用いただきました。高知駅の駅力には、アンパンマン列車の活躍が注目を集めています。観光需要の創出が最大の課題だと認識して、



高知駅のアンパンマン列車ひろば



その他の産業も含めて、地域の経済波及効果を生み出してまいります。鉄道にはまだまだ多くの可能性があります。

地方創生、観光振興へ地域と共に歩む

昨年、JR九州は上場して、多くの皆さまの期待に答えるべく、今か今かと準備をすすめてまいりました。今か今かと準備をすすめてまいりました。今か今かと準備をすすめてまいりました。

今も人気をいただいている「ゆふいんの森」も、民営化直後からスタートをきり、D&S列車を軸とした観光列車の取り組みが、

JR九州 常務取締役 後藤靖子氏

(6月23日付で常務取締役)



「なつ組」単一九州一もそのような取り組みで作り上げた列車です。JR東日本さん、JR西日本さん、クルーズ列車の連携を始めた。マスコミから問い合わせが、列車の旅は楽しいのだ。という

さまざまな「D&S列車」で 列車の旅の楽しさ伝える

とを多くの日本人、あるいは海外の方にも知ってもらいたい。大きなきっかけが、昨年7月に政府の取り組みが、



ゆふいんの森



あそぼーい!

このように日々、進化を続け、地域の元気を振り起こしたいと考えています。地域に貢献してまいります。